

# 物資不足の解消遠く

「綱渡りの状態だ」。避難所の物資不足は、18日午後も続いた。自治体幹部が危機感を募らす中、行政に頼らず住民たちで食事を用意しようという動きも出てきた。

町中学校のグラウンド。避難している男性(40)によると、おにぎりや水々らの生活が続いたが、18日午後

市は災害支援に携わる自衛隊員2千人の昼食を非常食として提供してもらい、避難所に配る苦肉の策に打った。

開設された16日夜には、大勢の人が押しかけ、駐車場で「車中泊」する人もいた。

## 持病抱え「どこに行けば」

### 震災関連死か

被災地の高齢者の命が危ぶまれている。17日朝、熊本県阿蘇市の避難所にいた女性(77)が亡くなり、震災関連死の疑いが生じた。「ストレスで胸がいっぱい。心臓まひを起こすかもしれない。窮屈な環境で持病を抱え、余震におびえる日々。」

らしの夫と無我夢中で避難入浴、自宅に着替えを取りに帰る以外、伏せている。建物に土台に亀裂が入ると、室内は家具が倒れ、足の踏み場もなかった。

も良くない。毎日大量の薬を飲んでいる。余震にたじろぎ「建物が崩れやせんか。次の、死にやせんか。気が気でなくて、気分転換もできない。」

開設された16日夜には、大勢の人が押しかけ、駐車場で「車中泊」する人もいた。

# 「自分もおびえる高齢者



避難所で疲れた表情を見せるお年寄り。18日午後、熊本県益城町

数百人の避難者が滞在する同県益城町保健福祉センター。DMAT(災害派遣医療チーム)スタッフがぎざぎざと診察受付に駆けつけ、日中、体調不良を訴える人がひっきりなしに訪れている。18日午後、センターでは横たわっている高齢者の姿が目立った。

熊本市阿蘇市の避難所で震災関連死とみられるケースが初めて確認された。大勢が寝泊まりする避難所の生活は負担が大きく、健康状態の悪化による関連死の増加が懸念される。

「遠慮しないで」避難所として利用されている阿蘇市の施設のトイレ個室内で17日朝、女性(77)が倒れているのが見つかった。16日未明の地震後、娘と一緒に身を寄せており、死因は急性心不全だった。

東日本大震災の被災地で医療に携った東京医科歯科大学の大友康裕教授(救急災害医学)は「避難所での負担は大きい」と懸念。トイレの回数を減らすと水分を控えると、脱水症状を起すことがある。

## 周囲が目配りを

### 負担大きい 避難所生活

脱線した九州新幹線。JR九州は18日、地震により熊本市内で脱線した九州新幹線の車両の撤去作業を開始した。JR西日本やJR東海の作業員らを含め約50人態勢で当たっている。

## 県が住宅応急調査へ

### 相談に 由布市と別府市で

由布市と別府市で震度6弱を観測した地震を受け、県は18日、避難している人たちから被害を受けた自宅などに戻れるか、応急的に調査することを決めた。

が、瓦が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町



脱線した九州新幹線の復旧作業。18日午後3時26分、熊本市(共同通信社ヘリから)

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町

が、互が落ち、外壁にひびが入るなどしている。特に由布市湯布院町では「再び大きな地震がきたら家がつぶれるのではないか」(町